英語の話し言葉における though 節の独立用法[1]

コーパスを用いた分析

水野　優子

1. はじめに

複文を構成する節の接続関係は、伝統的に、等位接続と従位接続に大きく分類され、さらに従位接続は関係節、補文、副詞節に分類されてきた。しかし近年、本来主節を伴うはずの副詞節が、独立節として用いられる例が報告されている。従位節が主節のように振る舞う現象は、insubordination（非従属化）と呼ばれ、言語類型論の研究分野において近年注目を集めている現象である。独立節としての用法が指摘されている副詞節には、英語の because 節、if 節、ドイツ語の obwohl 節などがある。一方、英語の譲歩を表す though 節については、これまで独立節としての用法はほとんど注目されてこなかった。

本研究は、英語の話し言葉において though 節にも独立節の用法があることを示し、その談話機能を明らかにすることを目的とする。さらに、独立節を導く though を談話標識として分析できるか、及び独立 though 節は文法化の節接続に関する単方向性の仮説の反例となるかについて考察する。

2. 方法

The Corpus of Contemporary American English (COCA)の 1990 年から 2017 年にかけて収録された話し言葉セクションに含まれる全ての though の用例 42,879 件から、話順の最初に現れる though 節 488 件を収集し、そこから独立節として使われている though 節の用例 89 件を抽出した。

独立 though 節の談話機能を分析する際、従来、従位接続詞としての though は although の同義語として扱われてきたことから、Mizuno (2018)による独立 although 節の分析を用いた。Mizuno (2018)によると、話し言葉において、独立 although 節は標準譲歩、訂正譲歩、自己訂正、不賛成という４つの機能を持つ。本研究では、これらの機能が独立 though 節にも見られるかという観点から分析を行った。

3. 分析：話し言葉における独立 though 節の談話機能

収集した 89 件の独立 though 節は、対話の中で用いられる場合とナレーターの発話の中で用いられる場合に大きく二分され、さらに対話の場合は、同一話者の先行する発話を受ける場合と聞き手の先行する発話を受ける場合に分類することができた。それぞれの頻度は下の表 1 に示した通りである。

表 1 独立 though 節の内訳

対話の中で用いられる	同一話者の先行する発話を受ける	5　(5.6%)
	聞き手の先行する発話を受ける	41　(46.1%)
ナレーターの発話の中で用いられる		43　(48.3%)
合計		89　(100%)

まず、対話の中で用いられ、同一話者の先行する発話を受ける独立 though 節には、訂正譲歩の機能があることが分かった。(1)が示すように、though 節は同一話者による先行する発話の内容（真実性や重要性）を弱める働きをする。

(1) JOANNE LIPMAN: So what we see with the newest numbers is that personal income is actually up.3 percent.
CHRIS-WRAGGE: Yeah.
JOANNE LIPMAN: **Though** when you factor in inflation it's only up.1 percent. (COCA)

対話の中で用いられ、聞き手の先行する発話を受ける独立 though 節には、(2)と(3)がそれぞれ示すように、訂正譲歩と不賛成の機能があることが分かった。

(2) ABBY-WAMBACH: (…) And, you know, I had to ask myself that very hard question is - am I still bringing value to this team, so much so that they - that I want to still participate and be on it?
TERRY-GROSS: **Though** you stayed in the game for four more years. (COCA)

(3) GLEN-HOWARD: I would disagree. (…) There's no revolving door between the Middle East and Chechnya, certainly not now.
MARGARET-WARNER: **Though** quite a few Chechens have certainly been arrested or killed in both Afghanistan and Pakistan? (COCA)

(2)では、Abby が現役時代の辛かった時期を振り返っており、その発話内容からは「それほど辛かったならすぐに引退したのではないか」という推論が導かれるが、次の Terry の though で始まる発話は、この推論を打ち消している。(3)では、though 節が先行する Glen の発話に対する Margaret の不賛成を表している。

次に、ナレーターの発話の中で用いられる場合は、(4)と(5)がそれぞれ示すように、訂正譲歩と新情報の追加という機能があることが分かった。

(4) UNIDENTIFIED-MALE: It seemed like almost every other customer was coming in for plastic sheeting, duct tape.
ORR : **Though**, some customers werent sure why they were buying it. (COCA)

(5) JOHN-EARL: It's so - it's so fun, people watching and the questions they ask. I just watch their reactions.
SMITH: **Though** what's even funnier is how John Earl, this musician and artist who dropped out of college after two weeks, is now on Boston's most fashionable strip selling these t-shirts (…) (COCA)

(5)では訂正譲歩と異なり though 節が先行発話を弱めているわけではなく、先行発話に関連する新しい情報を追加しているだけと言える。

4. 考察

この節ではまず、独立節を導く though を談話標識として分析できるかを考察する。Günthner (2000:457)が指摘するように、談話標識の定義は研究者によって異なるが、多くの研究によって確認されている談話標識の一般的特徴がある。本研究では Günthner (2000:457)によって挙げられた９つの特徴の内、６つを取り上げ、独立節を導く though に当てはまるか検証した結果、though はこれらの談話標識の特徴を持つことが分かった。第一に、独立 though 節は書き言葉より話し言葉で多く用いられる。第二に、though はもともと従位接続詞である。第三に、though は短い項目(short item)である。第四に、though は発話頭に現れる。第五に、独立節を導く though は選択的である。すなわち、例えば(5)で though を用いなかったとしても、文は非文法的にならずその命題内容も変わらない。第六に、though は多機能的でいくつかの談話レベルで機能する。例えば、(3)のように though が不賛成を表す場合、聞き手による発話内容と反対の内容を述べることを合図する逆接機能を持つと同時に、話者の反論を表す感情表出機能を担っている。以上の観察は、独立節を導く though はもはや従位接続詞ではなく、談話標識として分析できることを示している。

次に、独立 though 節を文法化の視点から考察する。Hopper and Traugott (1993: xv)は、文法化を「ある語や構文が、次第に文法的な機能を果たすようになり、さらにその機能を拡張していく変化」と定義している。大橋(2013:164)によると、談話標識の発達もまた広い意味での文法化の例と考えることができる。文法化のプロセスは変化の方向が一定であることが指摘されており、単方向性の仮説と呼ばれている (Hopper and Traugott 1993: 94)。本研究では、この仮説の内、節接続の傾向 (a cline of clause combining) について検討する(ibid. 170)。この傾向は、文法化に伴う変化の方向は、非従属節から従属節へ変化することを予測する。この仮説を検証するため、収集したデータについて、1990 年から 2017 年までの各年の独立 though 節の件数を数え、話順の最初に現れる though 全体に占める割合を調査した。その結果、独立 though 節の全体に占める割合は、徐々にではあるが増加傾向にあることが分かった。すなわち、though 節は従属節から非従属節へと拡張していっていることを示唆しており、節接続に関する単方向性の仮説の反例となることを示している。

5. 結論

コーパスから収集した実例を分析し、独立 though 節には訂正譲歩、不賛成、新情報の追加という機能があることを示した。また、独立節を導く though は談話標識として分析できること、および文法化の節接続に関する単方向性の仮説の反例となることを示した。

参考文献

Günthner, S. 2000. "Form concessive connector to discourse marker: The use of *obwohl* in everyday German interaction." In E. Couper-Kuhlen and B. Kortmann (eds.) *Cause Condition Concession Contrast: Cognitive and Discourse Perspectives*, 439-468. Berlin and New York: Mouton De Gruyter.

Hopper, P.J. and E.C. Traugott. 1993. *Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

Mizuno, Y. 2018. "A Corpus-Based Analysis of Independent *Although* Clauses in Spoken English Discourse." *Proceedings of the 20th Conference of the Pragmatics Society of Japan* 13, 215-222.

大橋 浩. 2013. 「文法化」、森 雄一、高橋 英光（編）『認知言語学 基礎から最前線へ』、155-177、東京：くろしお出版.

[1] 本研究は JSPS 科研費 JP19K00677 の助成を受けたものです。